

## 自治研活動入門

## 自治研ノススメ

ジチケン。聞いたことはある。意味はなんとなくわかるような、わからないような…。

「自治研」に対して、そんなイメージを持っている人も多いのではないのでしょうか。また、「自治研」という言葉を知ってはいても、具体的にどんなことをしたらいいのか迷っている人もいるかもしれません。

でも、何から始めても、何をしてもいいのが「自治研」。身の回りの関心のあることから、気軽に「自治研」、始めてみませんか。



自治研キャラクター・じち犬

## 1 ジチケンって何だろう

## (1) 自治研は「何でもあり」

漢字で書くと「自治研」。これは「地方自治研究活動」を略したものです。文字通り、地方自治について研究したり、実践したりする活動のことです。

そう聞くと、「なんだか難しそう」と感じるかもしれません。しかし、地域公共サービスを担う自治労組合員の皆さんの日々の仕事は、まさに地方自治に関わるもの。また、それぞれの地域住民としての日常生活で起きるさまざまなことも、地方自治につながっています。つまり、皆さんの身の回りにあるすべてのことが、自治研活動のテーマになるのです。

テーマが「何でもあり」なら、活動の手法もまた「何でもあり」。自由に、柔軟に、幅広く、誰でもできる活動。それが自治研です。

## (2) 自治研のテーマって何だろう

「何でもあり」と言われると、逆に何をすればいいかわからない。そんな声も聞こえてきます。

職場で、組合活動で、地域で、ちょっと周りを見回すと、興味や関心のあるテーマが見つかるのではないのでしょうか。または、仲間同士で盛り上がる共通の話題や、改善したい課題があるのではないのでしょうか。例えば…

学校給食	まちづくり	職場改善
デジタル化	防災	観光資源
市民協働	環境	平和
子育て	財政	図書館
介護	移住・定住	議会制度
公共交通	人材育成	歴史・文化
農業	空き家	

これらはほんの一例です。自治研活動では本当に幅広いテーマを取り上げることができます。

## (3) 自治研のやり方って何だろう

活動の手法も、少人数でやるもの、組合員や職場の仲間にも広く呼びかけるもの、他の団体や住民と協力してやるものなどさまざまです。テーマなどに応じて、やりやすい形を選んでいくのがいいかもしれません。例えば…

勉強会	まち歩き	視察	交流
アンケート	講演会	調査	ワークショップ
フィールドワーク	ヒアリング	イベント開催	
レポート	パネルディスカッション	ワールドカフェ	

ほかにもやり方はたくさんあり、多様な活動に結びつけることができます。テーマと手法の組み合わせの

例をあげてみましょう。

- 「防災」×「交流」＝被災地ネットワークの構築
- 「歴史・文化」×「フィールドワーク」  
＝地域資源の再発見
- 「まちおこし」×「学校給食」×「イベント」  
＝ご当地グルメのイベント開催

## 2

## 組合が自治研をやるのはなぜだろう

### (1) やりがいのある仕事のために

自治研について、少しわかっていただけたでしょうか。ところで、皆さんの中には「組合の役割は賃金・労働条件の改善に取り組むこと。どうしてわざわざ自治研活動までやるの？」と疑問に思う人もおられるかもしれません。

でも、住民に喜ばれる仕事、信頼される仕事をしていかなければ、やりがいのある仕事を実現することができないばかりか、質の高い公共サービスを提供することはできません。また、自分たちの賃金や労働条件の改善だけに取り組んでいる労働組合に、住民からの共感は得られません。自治研活動に取り組むことによって、仕事のやりがいが向上するだけでなく、住民からの理解や信頼を得ることができます。

誰もが気軽に取り組める自治研活動を通じて、組合の活性化や、新たな担い手の育成にもつながります。

### (2) 自治研を通じた課題解決

そうは言っても、普段の業務だけでも大変ですよ。マイナンバー、DX、自然災害、感染症対策など、業務量はますます増え、少子・高齢化や人口減少をはじめ地域の課題も山積しています。組合活動の方も、執行委員会や交渉、オルグなど役員は多忙です。自治研活動は後回しにされがちですが、こんなに大変な状況だからこそ、自治研によって、職場や地域の課題を解決するヒントを得られる可能性もあります。

そういった活動の例を、第16回地方自治研究賞を受賞したレポートの中からご紹介します。

### (4) 自治研に「正解」はない

多様なテーマを、多様な手法で。だから自治研は、「無限大」に広がる可能性を持った活動です。とはいえ、まずはできるところから、できる範囲で、一歩を踏み出してみましょう。うまくいかなかったとしても大丈夫。自治研には「正解」はなく、「トライ&エラー」ができるのです。

#### ① 島根県本部／江津市職労

「ワークショップで進める自治研活動—発見、気づき、可視化のワークショップで組合員の人材育成とつながりを意識した取り組み—」

江津市では、これまでの地域振興の取り組みで人口の社会減の傾向は緩やかになる一方、総合病院の赤字など地域医療に関する課題などを抱えています。市職労は、「江津市の現状を理解し、広い視野で行政課題に取り組む職員の育成につながる機会を労働組合が創出して、人材育成を図りながら、職員間のつながりを再構築する」とし、新入組合員への説明会やワークショップ、全組合員対象の連続研修会を企画しました。SDGs、議会、介護保険、生活保護などの行政課題ごとに担当者が講師を務め、受講者だけでなく講師にとっても「人材育成」の取り組みとなる視点を持っています。地域の問題に目を向け、地域をより良くするための当事者意識を持ってもらい、自発的な行動を促す仕掛けを取り入れた活動です。

スイーツを食べながら  
気楽に情報交換・意見交換

おしごとカフェ IN 職員会館

みんなでつくる  
「理想の職場」

3回シリーズ  
可能なら全部ご参加ください

◆メニュー◆  
第1回「あなたの仕事はどんな仕事？」  
2月26日(水)17:45-19:45  
第2回「働きやすい職場ってどんな職場？」  
3月19日(水)17:45-19:45  
第3回「あなたに出来る働き方改革？」  
4月16日(水)17:45-19:45

※参加費は無料です。お申し込みは職員会館まで。お申し込みは職員会館まで。お申し込みは職員会館まで。

申込先【おしごとカフェ IN 職員会館 申込書】  
お申し込みは職員会館まで。お申し込みは職員会館まで。お申し込みは職員会館まで。

会計年度任用職員対象の  
学習会のチラシ  
※コロナの影響で1回の  
みの開催

## ②広島県本部／自治労はつかいちユニオン 「業務改善の取り組みと労働組合の持つ可能性」

時間外業務が市役所内でトップクラスに多い財政課。業務改善のため、これまでなかった業務のマニュアル集を作成しました。課員で協力して作成する過程で、課員同士のコミュニケーションも増え、いい雰囲気生まれる副次的効果もありました。さらに、他部署の職員が予算や財政に関する知識を身につけ、将来に役立てられるように、若手を対象に組合の学習会を企画。組合の活動とすることで、市役所の業務として行うよりも自由度が高いというメリットがあります。また、職場の垣根を越えたつながりを持ち、職場を良

くしていくための組織である組合だからこそ、人材育成や職場風土づくりに力を入れるべきだという考えもありました。その後、学習会では財政以外のテーマも取り上げ、「ユニ学」と題して取り組んでいます。



はつかいちユニオンでの学習会の様子

このほかにも、全国の単組で多様な活動が展開されています。詳しくは、自治研ホームページにある「自治研集会レポート・報告集」や、「月刊自治研」に掲載している自治研活動レポートなどを参照してください。

## 3 自治研活動を広げていこう

### (1) 分別収集も休日・夜間診療も自治研から

自治労は、自治研を運動の大きな柱として、1957年から取り組んできました。この年の4月、山梨県で第1回地方自治研究全国集会在開催され、1959年には「月刊自治研」が創刊されます。

1961年の第5回自治研全国集会（静岡）では、四日市公害が告発されます。四日市市職労と三重県職労が四日市公害の実態を調査し、その内容を明らかにしたのです。これをきっかけに公害が社会問題化しました。

自治研活動はさらに広がっていきます。1976年には、静岡県沼津市で全国初の「ごみの分別収集」が始まりました。そのきっかけも自治研活動。職場内での話しあいから、画期的な資源循環型リサイクルシステムをスタートさせたのです。また、今では多くの自治体で実施している「急病人の休日・夜間診療」は、自治労衛生医療評議会を中心とした運動が実を結び、70年代中頃から全国に広がっていった制度です。

こうした歴史を持つ自治研。職場の課題を話しあうことが、地域を、そして社会全体を動かしていく大きな可能性を秘めています。スタートは小さな一歩から。その一歩を踏み出せる環境を、次の世代にもつなげていきたいものです。

### (2) やらざあ、自治研ルネサンス！

自治研全国集会是、現在は2年に1度の開催とな

り、2022年10月の静岡自治研で第39回を迎えました。次回は2024年10月に島根で開催されます。

静岡自治研のサブスローガンは「やらざあ、自治研ルネサンス！」でした。「やらざあ」は静岡の方言で「やろうよ」という意味。「ルネサンス」には「復興」などの意味があります。これまで受け継がれてきた自治研活動を再活性化し、担い手の裾野を広げようという思いを込めています。今は、静岡で参加者が得たものをそれぞれの地域に持ち帰って活動に生かし、次の島根自治研にむけて準備をしているところです。

また、「月刊自治研」は2023年7月号で通巻766号となりました。自治体労働者だけでなく、研究者や地方議員、市民団体などさまざまな立場の人が登場して地方自治や公共サービスについて問題提起しており、自治研活動の題材探しや、視察先の選定などに活用することができます。2022年9月号に掲載した「自治研活動スタートアップマニュアル」は、これから自治研活動をやってみようという人にぴったりの内容です。

そのほか本部では、若い人も気軽に参加できる「自治研 UNDER35」や「オンラインセミナー」を企画しています。気になったら単組の役員に尋ねてみてください。

ここまで読んでくださったあなた。「ようこそ、自治研へ！」

これからの仕事や組合活動が、今よりも少し面白くなるでしょう。